

平成28年度

事業報告書



学校法人 純真学園

目 次

I. はじめに	1
II. 法人の概要	
1. 学園設立の目的	2
2. 教育方針	2
3. 法人の沿革	3
4. 設置学校	
入学者、在学者数	4
5. 役員に関する事	5
6. 教職員数に関する事	6
III. 事業の概要	
1. 純真学園大学	7
2. 純真短期大学	11
3. 埼玉純真短期大学	17
4. 純真高等学校	21
5. 法人事務局	23

I. はじめに

純真学園の歴史は、昭和 31 年、福田昌子によって「学校法人 純真女子学園」が設立されたことに始まります。

同年、私学としては福岡県において戦後 3 番目となる「純真女子高等学校」を開設し、翌昭和 32 年には「純真女子短期大学」を、昭和 42 年には「東和大学」を開設しました。

産婦人科医でもあった福田昌子は、豊富な医療経験と知識を活かして、昭和 40 年に私学では初となる衛生看護科を純真女子高等学校に設置しました。

また、東和大学においても創設当初より医療電子工学科を設け、その後、臨床工学技士の資格取得を目指せる、当時としては九州唯一の臨床工学コースを設置。常に医療の最前線で活躍する人材の育成に尽力してきました。

学園開設より 50 余年、本学園は、地域社会の求める実践的職業人を多数輩出、教育文化の振興に寄与するなど、多大な実績を上げてきました。平成 19 年度には学校法人の名称を「学校法人 純真学園」に、「純真女子短期大学」を男女共学の「純真短期大学」へと変更・改組しました。

さらに、新たな 50 年に向けての大きな一歩として、平成 23 年 4 月、医療系 4 学科を九州地区で初めて同時設置する「純真学園大学」を開学しました。

また、平成 30 年度からは、独立行政法人国立病院機構九州医療センターとの協力体制のもと、九州における看護・医療技術分野の指導にあたる高度専門医療人の育成を目的とし、純真学園大学大学院の開設を予定しています。

これからも設置校の更なる教育環境の整備及び教育の質の向上に積極的に取り組み、創設者である福田昌子の建学の精神に基づき「気品・知性・奉仕」を体現し、社会に貢献する人材の輩出を目指して参ります。

Ⅱ．法人の概要

1．学園設立の目的

学校法人純真学園は、教育基本法及び学校教育法に従って学校教育を行い、人間及びその社会をよりよい方向に変革しうる人材の育成を目的とする。

2．教育方針

学校法人純真学園は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を訓育するために、その教育方針として次の学園訓を掲げる。

「気 品」

「知 性」

「奉 仕」

「気品」 人を魅了し、良き師、良き友を得て、お互いを高め合い、他者をして犯すべからざる、精神性の高さで行動すること。

「知性」 広い視野に立ち、枝葉末節に拘泥することなく、物事の本質を見定め、考え、判断し、節度を持った行動をすること。

「奉仕」 多くの人に支えられていることに感謝し、利害得失を捨てたときに、心の底から生まれる志に準じて行動すること。

3.法人の沿革

昭和 31 年	2 月	学校法人純真女子学園設立
昭和 31 年	2 月	純真女子高等学校設置 普通科設置
昭和 32 年	3 月	学校法人純真女子学園を学校法人福田学園に名称変更
昭和 32 年	3 月	純真女子短期大学設置 国文科設置
昭和 33 年	12 月	純真女子短期大学 家政科設置
昭和 39 年	1 月	純真女子短期大学 英文科設置
昭和 40 年	1 月	純真女子高等学校 衛生看護科設置
昭和 41 年	2 月	福田学園中学校設置
昭和 41 年	2 月	純真女子短期大学附属幼稚園設置
昭和 42 年	2 月	東亜共立大学設置 工学部工業化学科・電気工学科設置
昭和 42 年	7 月	東亜共立大学を東和大学に名称変更
昭和 43 年	7 月	純真女子高等学校を東和大学附属高等学校に名称変更
昭和 43 年	7 月	福田学園中学校を東和大学附属中学校に名称変更
昭和 48 年	1 月	東和大学工学部 建設工学科設置
昭和 48 年	4 月	東和大学附属高等学校を東和大学附属東和高等学校に名称変更
昭和 49 年	1 月	東和大学工学部 経営工学科設置
昭和 54 年	3 月	東和大学附属昌平高等学校設置
昭和 58 年	2 月	埼玉純真女子短期大学設置 英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部設置
平成 12 年	3 月	純真女子短期大学英文科を英語科に名称変更
平成 13 年	11 月	純真女子短期大学附属幼稚園廃止
平成 14 年	4 月	東和大学附属東和高等学校衛生看護科を看護科に名称変更
平成 14 年	4 月	東和大学附属東和高等学校 看護専攻科設置
平成 15 年	6 月	純真女子短期大学家政科を家政学科に名称変更
平成 15 年	6 月	東和大学 工学部医療電子工学科・環境デザイン工学科・情報学科設置
平成 15 年	8 月	純真女子短期大学 現代コミュニケーション学科設置
平成 16 年	4 月	埼玉純真女子短期大学英語学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
平成 16 年	4 月	埼玉純真女子短期大学児童教育学科をこども学科に名称変更
平成 16 年	4 月	埼玉純真女子短期大学幼児保育学科第二部を乳幼児保育学科第二部に名称変更
平成 17 年	3 月	純真女子短期大学 国文科・英語科廃止
平成 17 年	12 月	純真女子短期大学 こども学科設置
平成 18 年	2 月	純真女子短期大学家政学科食物栄養専攻を食物栄養学科に名称変更
平成 19 年	4 月	東和大学附属昌平高等学校 設置者変更
平成 19 年	4 月	学校法人福田学園を学校法人純真学園に名称変更
平成 19 年	4 月	純真女子短期大学を純真短期大学に名称変更
平成 19 年	4 月	埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学に名称変更
平成 19 年	4 月	東和大学附属東和高等学校を純真高等学校に名称変更
平成 19 年	4 月	東和大学附属中学校を純真中学校に名称変更
平成 20 年	3 月	埼玉純真短期大学 英語コミュニケーション学科廃止
平成 21 年	3 月	純真短期大学 現代コミュニケーション学科廃止
平成 21 年	3 月	純真高等学校 音楽科・理数科・保健体育科廃止
平成 22 年	3 月	純真短期大学 第三者評価適格認定
平成 22 年	3 月	埼玉純真短期大学 第三者評価適格認定
平成 22 年	4 月	埼玉純真短期大学 乳幼児保育学科第二部廃止
平成 22 年	10 月	純真学園大学設置
平成 23 年	4 月	純真学園大学 保健医療学部開学
平成 23 年	10 月	東和大学廃止
平成 23 年	12 月	純真保育園設置
平成 24 年	3 月	純真中学校廃止
平成 25 年	3 月	埼玉純真短期大学第三者評価適格認定
平成 27 年	3 月	純真短期大学第三者評価適格認定
平成 28 年	3 月	保育園事業(純真保育園)を社会福祉法人晶へ事業譲渡
平成 29 年	3 月	純真学園大学 大学機関別認証評価適合認定

4. 設置学校

①入学者、在学者数

設置する学校	学部学科	入学定員	収容定員	入学者数	在学者数	在学者 前年比増減
純真学園大学	保健医療学部					
	看護学科	80 名	320 名	86 名	370 名	△ 4 名
	放射線技術科学科	60 名	240 名	67 名	284 名	7 名
	検査科学科	60 名	240 名	69 名	288 名	17 名
	医療工学科	40 名	160 名	42 名	182 名	10 名
小計		240 名	960 名	264 名	1,124 名	30 名
純真短期大学	こども学科	100 名	200 名	113 名	210 名	△ 5 名
	食物栄養学科	80 名	160 名	69 名	146 名	3 名
小計		180 名	360 名	182 名	356 名	△ 2 名
埼玉純真短期大学	こども学科	150 名	300 名	135 名	274 名	△ 30 名
小計		150 名	300 名	135 名	274 名	△ 30 名
純真高等学校	全日制課程普通科	190 名	570 名	209 名	676 名	△ 17 名
	看護科	40 名	120 名	39 名	120 名	△ 2 名
	看護専攻科	40 名	80 名	40 名	86 名	2 名
小計		270 名	770 名	288 名	882 名	△ 17 名
合計		840 名	2,390 名	869 名	2,636 名	△ 19 名

*在学者数は平成28年5月1日現在の人数

5. 役員に関すること（平成 28 年 5 月 1 日現在）

① 理事（定数 5 ～ 8 名）

理事（現員 6 名）

理事長 福田庸之助（純真学園大学学長、純真短期大学学長）
理 事 藤田利久（埼玉純真短期大学学長）
理 事 米山和広（純真高等学校校長）
理 事 豊永せつ子（こどもの園純真園長）
理 事 目瀬道弘（前純真短期大学学長）
理 事 吉田寛（公会計研究所所長）

② 監事（定数 2 ～ 3 名）

監事（現員 3 名）

監 事 小鮎成忠（小鮎法律事務所弁護士）
監 事 早川勉（早川勉税理士事務所代表）
監 事 堤雅彦（堤公認会計士事務所代表）

③ 評議員（定数 11 ～ 17 名）

評議員（現員 13 名）

評議員 福田庸之助	評議員 藤田利久
評議員 米山和広	評議員 豊永せつ子
評議員 目瀬道弘	評議員 吉田寛
評議員 加藤亮二	評議員 下村久美子
評議員 中川幸広	評議員 小野英生
評議員 大山富一	評議員 坂本雅志
評議員 森岡久貴	

6. 教職員数に関すること(平成28年5月1日現在)

教育職員数

(単位:人)

所属	教授	准教授	講師	助教	助手	非常勤実習助手	非常勤講師	計
純真学園大学	28 (26)	17 (22)	10 (9)	17 (17)	3 (3)	4 (2)	66 (79)	145 (158)
純真短期大学	9 (9)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	3 (4)	0 (0)	30 (28)	53 (52)
埼玉純真短期大学	5 (5)	3 (3)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (27)	41 (41)
合計	42 (40)	23 (28)	20 (20)	20 (20)	6 (7)	4 (2)	124 (134)	239 (251)

* ()内は平成27年5月1日現在の人数

(単位:人)

所属	教諭	常勤講師	非常勤実習助手	非常勤講師				計
純真高等学校	41 (41)	15 (17)	3 (1)	39 (33)				98 (92)

* ()内は平成27年5月1日現在の人数

事務職員数

(単位:人)

所属	専任職員	兼務職員						計
純真学園大学	21 (20)	13 (13)						34 (33)
純真短期大学	11 (12)	3 (3)						14 (15)
埼玉純真短期大学	10 (9)	9 (10)						19 (19)
純真高等学校	7 (7)	2 (1)						9 (8)
法人事務局	16 (17)	14 (17)						30 (34)
合計	65 (65)	41 (44)						106 (109)

* ()内は平成27年5月1日現在の人数

Ⅲ. 事業の概要

1. 純真学園大学

純真学園大学は、平成 23 年 4 月に保健医療系 4 学科（看護学科、放射線技術科学科、検査科学科、医療工学科）を有する大学として設置され、6 年目である平成 28 年度には 4 月に 6 期生 264 名を迎え入れることができ、年度末には卒業生 258 名を輩出しました。

以下、平成 28 年度に重点事業として実施した取組みについて報告します。

(1) 入学者（定員）の確保について

平成 28 年度においては、各学科とも入学定員を充足し学部入学定員 240 名を超える 264 名の入学生を確保することが出来ました。

純真学園大学のブランド力を高めるため、広報活動として本年度も公開講座、学術講演会、出前授業、サイエンスキャンプ、健康フェスティバル、育児体験教室等を実施しました。また、学校見学会開催、進路ガイダンスへの参加、オープンキャンパス開催等本学の認知度を上げるため、様々な広報活動等も行いました。特にオープンキャンパスは回を重ねる毎に高校生やその保護者等の来訪が増え、本年度の来訪者は学生 641 名（うち 245 名が出願）でした。

平成 28 年度	看護学科	放射線技術 科学科	検査科学科	医療工学科	合計
入学定員数	80	60	60	40	240
入学者数	86	67	69	42	264
入学定員 充足率	107.5 %	111.7 %	115.0 %	105.0 %	110.0 %

(2) 学生の学修環境整備について

以前からの懸案事項であったキャンパス内 WiFi 化を本年度はまず、図書館、学生ホール等から実施しました。その他、ICT 機器の導入やキャンパス内完全 WiFi 化を目指すための情報インフラ基盤整備も行いました。また、経年劣化対策として純真学園本館の外壁を全面的に改修し新たな装いの本館になりました。

後述する「大学組織改革について」のところにありますとおり、平成 30 年度より純真学園大学大学院の設置及び学部収容定員増を行うため、本年度末に文部科学省へ対して認可申請書を提出しました。このことにより、平成 30 年度からは入学定員数が増加し年々学生数が増えてきます。4 学科合同のチーム医療教育や多職種連携教育を行うために、大人数を一度に収容するための大規模講義室が必要となってきました。講義室に限らず実験実習室の増加も含めて新たな施設設備や新校舎の整備を検討しています。

(3) 新カリキュラム導入と多職種連携教育について

本学の教育目標は幅広い教養と高い倫理観及び医療職としての使命感を備えた人材を育成するとともに、専門性を基盤とした課題探求能力、問題解決能力、実践能力を備え、チーム医療が担える医療人を育成することです。本年度からはこれまでのカリキュラムを見直し新カリキュラムを導入しました。医療人としての素養を身につけるための大学独自の自校教育科目「純真学」と「現代教養講座」を新たに設けました。

また、本学では 4 学科合同で 1 年次から 4 年次まで段階的に学ぶ多職種連携教育（Interprofessional Education）を行っています。この教育は、各学科の学生が職種間の相互理解を深め、患者中心の全人的医療を目指すチーム医療の一員として、平等な立場で連携・協働できる能力を育むことを目標としています。このような教育を通して、学生はチーム医療について理解を深め、チーム医療の実践のために、お互いの職務を理解することが大切であること、職種間のコミュニケーションが大切であること等を学んでいます。

(4) 国家試験合格に向けて

国家試験受験対策として国家試験対策委員会を中心に、各学科において対策講座や学内・学外模擬試験、補講等を実施し合格率 100%を目指しました。

学生の国家試験に対する意識向上を図り、教職員一同全力でサポートしました。試験結果（国家試験合格率）は以下のとおりとなりました。

（新卒者のみ）

学科	看護	放射線技術科学	検査科学	医療工学
国家資格	看護師	診療放射線技師	臨床検査技師	臨床工学技士
本学 合格率	96.7 % 保健師 100 %	94.9 %	86.8 %	92.5 %
全国平均 合格率	94.3 % 保健師 94.5 %	96.0 %	89.9 %	81.9 %

受験者全員の 100%合格を目指しましたが、国家試験合格率は全学科ともすべて満足いく結果とはなりません。次の受験に向けて各学科とも試験結果の分析、指導体制の見直し等を行い全学科で再度全員合格に向けて取組めます。

これまで過去 3 回の国家試験を経験し、年間を通した学生のモチベーション維持の重要性や補講の実施時期及び回数等、あるいは最終学年のみならず低学年における対策実施の必要性など、今後も適宜修正を加えながら国家試験全員合格を目標としたシステム作りに全力を尽くします。

(5) 進路対策について

進路に関する相談・支援に関し、就職については進路対策委員会、SG 担任、学生センター就職係の支援体制が、進学については主に学年担任、SG 担任による支援体制をとっています。

本学のように医療系職業人養成というはっきりした目的を有する大学へ進学する学生及び保護者の目標は医療職への就職です。進路対策委員会では各学科の SG 教員、就職係等と連携し学生個々人に合った就職支援を行っています。また各地の大学病院、基幹病院等の医療関連施設への訪問・打ち合わせなどを通じて連携強化を図っています。

また、本年度第 3 回保護者連絡会を本学筑紫丘キャンパス内で開催し、128 名という多くの保護者のご参加がありました。参加された保護者からのアンケートには「有意義であった、来年も開催して欲しい」「もっと長い時間面談したい」「もっと早くから参加すれば良かった」等の意見がありました。

平成 28 年度卒業生の就職状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）は以下の通りであり、国家試験合格者の就職率は今後、100%に達する見込みです。

平成 29 年 3 月 31 日現在

	看護学科		放射線技術 科学科		検査科学科		医療工学科		保健医療学部	
	全体	国家試験 合格者	全体	国家試験 合格者	全体	国家試験 合格者	全体	国家試験 合格者	全体	国家試験 合格者
就職 希望者数	87	84	59	56	68	59	40	37	254	236
就職者数	84	84	45	45	58	55	28	28	215	212
就職率	96.6%	100%	76.3%	80.4%	85.3%	93.2%	70.0%	75.7%	84.6%	89.8%

*進学者（看護学科 3 名）及びその他（家事手伝者 1 名）は含まず。

(6) 国際交流推進事業について

教員及び学生の国際的視野を広げることを支援する目的で設置された国際交流推進委員会では、海外の大学や教育研究諸機関との提携・交流協定の締結を通じて本学の国際交流を進めるとともに、教職員を含む短期研修性の派遣と受入れを積極的に展開しています。

地理的にも比較的近い韓国、台湾、中国、タイ、ベトナム等のアジアを中心とする国々の保健医療系大学と積極的に活動を行っています。本年度には新たにハワイ大学との間で交流協定を締結しました。

また、本年度は 3 泊 4 日で韓国の春海保健大学校及び仁済大学校へ 38 名の学生が短期研修を行い、春海保健大学校、仁済大学校、及び春海・凡泉病院、仁済・海雲台白病院の訪問、見学を行うことができました。

(7) 第3者評価による適合認定について

本学は本年度、大学新設後初めて公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受けました。国公立を含む大学短大は7年以内に一度第3者による外部評価を受けることが義務付けられており、本学は平成28年11月に行われました日本高等教育評価機構による実地調査を経て適合認定となりました。評価内容には新カリキュラムの中で展開している純真学について、自校教育にとどまらず職業教育としての優位性をもった特色ある取組みとして評価されました。

(8) 大学組織改革について

純真学園大学では、平成30年度より保健医療学部の教育内容を深化させた大学院を設置する予定となり、文部科学省へ大学院設置認可申請を行いました。平成25年度に独立行政法人国立病院機構九州医療センターと締結した協定に基づき、九州医療センター敷地内の建物を活用した医療系大学院の設置を行います。医療センターの先端設備・機器等を学生教育に活用できるようになり、大学と医療センターが協力し九州における看護・医療技術分野の指導にあたる高度専門医療人の育成を目指していきます。

また、経営基盤を安定させるための施策の一つとして、平成30年度より保健医療学部の収容定員を増加させる予定となり、文部科学省へ収容定員増認可申請を行いました。

(9) 地域貢献事業について

本学では大学としての教育研究以外にも多くの取組みを行っております。

地域貢献の一環として、これからの若い人材に科学への関心を高めてもらうために、毎年夏休み前後に高校1年、2年生や中学の理科の先生を対象とした「サイエンスキャンプ」を実施し、大学における専門教育の一端を体験してもらっています。また、地域への知の公開として「公開講座」をはじめ、子宮頸がん検診促進、高校への出前講義等を行い、学術講演会では医療技術の最先端を学ぶ内容として国内トップレベルの研究者を招聘し幅広く医療関係者にも公開しています。

また、福岡市南区との包括連携協定及び地域大規模災害時の協力協定、さらに福島県広野町との間で復興への支援に関する協力協定を締結するなど、今後とも出来る限り貢献をしてまいります。

2. 純真短期大学

純真短期大学では、充実したスタッフとカリキュラム、立派な施設や設備、都心近くでありながら緑豊かな文教地区、と恵まれた教育環境のもと、本学園の建学の精神を具現化するとともに、学科の教育目的に基づく一貫した教育体系を構築し、広く深い知識、高い専門性、そして豊かな人間性を合わせ持った人材を育成することを基本的な教育理念としています。

そうした基本理念のもと、中長期的な目標としては九州・福岡で短期大学としてブランド力を持つことを掲げ、以下のようなミッションを遂行しています。

- ①社会に通用する人材の育成
- ②地域から愛される大学
- ③学生、保護者から愛される大学
- ④入学定員の確保
- ⑤高い就職率の確保
- ⑥教育環境の充実
- ⑦教職協働

平成 28 年度に重点事業として実施した取組みについて報告します。

(1)純真スタイルの確立

- ・3 つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)

3 つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン(中央教育審議会分科会大学教育部発信)に則り、現在のポリシーを改訂しました。

新しいポリシーは、平成 29 年 4 月 1 日にホームページに公表しております。

(2)組織基盤の強化

- ・教育職員の能力向上

ポートフォリオに関する FD 講演会を実施しました。

今後、このツールを活用し、学習成果を可視化することにより、学習意欲の向上を図っていきます。

- ・事務職員の能力向上

「教員審査と教員個人調書」、「学校会計」及び「学校法令」に関する SD 研修を実施しました。

今後も定期的に開催し、担当業務の視野拡充に役立てていきます。

- ・地域連携

平成 28 年 12 月に福岡市南区と近郊大学・短期大学(7 大学)との間で、包括連携協定を締結しました。各々の締結校とコラボレーションし、今後も南区の地域貢献の一翼を担っていきます。

(3)経営基盤の強化

- ・入試広報戦略

次年度(平成 29 年度)入学予定者数は、今年度よりも減少しました。

その主な要因については、以下の 3 点が考えられます。

- ① 入学者試験制度及び奨学生制度の改正
- ② 提携校の志願者数の減少
- ③ オープンキャンパス参加者数の減少

今後、減少要因を詳細に分析し、新たな広報活動に取組みます。

【平成29年度入試状況】		(平成29年3月31日)	
項目 \ 学科名	食物栄養学科	こども学科	合計
入学定員数	80	100	180
入学者数	53	78	131
入学定員充足率	66.3%	78.0%	72.8%

・教育環境の整備

短大棟について、以下の整備を行いました。

- 6・7 階に設置している空調機更新
- 6 階講義室(601・602・603・605 教室)の LED 化
- 3・4 階に設置している厨房機器の改修
- 屋上開口部の閉鎖

(4) 就職支援活動について

就職状況は、下表のとおりです。昨年度と比較した場合、食物栄養学科では 2.0 ポイントの上昇(95.0%→97.0%)、こども学科では 3.8 ポイント(100%→96.2%)の低下となりました。

【就職状況】		(平成29年3月31日)				
項目 \ 学科	食物栄養学科		こども学科			
	全体	栄養士資格	全体	保育士資格	幼稚園教諭免許	小学校教諭免許
就職希望者数	67	61	79	67	76	9
就職者数	65	60	76	66	74	8
就職率	97.0%	98.4%	96.2%	98.5%	97.4%	88.9%

(5) 食物栄養学科

① 教育内容の充実

食の専門家である栄養士を志す学生に対し、栄養士の専門領域に関する基本的な知識・技術・態度をはじめ、栄養の指導・給食の運営を行うために必要な能力を身につけるカリキュラムを展開

しています。カリキュラムを構成する際には、理論から応用へと展開して、講義(理論)では理解できない内容も演習・実習・実験を通して理解を深めていくことができるようにしています。教員は授業評価アンケートをもとに授業内容の検討を行い、改善を図り、常に解り易い授業と最新の内容を教授することを心掛け、満足度の高い授業を実施するよう努めました。

学科の特色ある教育として、学内インターンシップ及び食育キャンプを実施しました。学内インターンシップを「こどもの園純真」及び「純真レストラン」にて実施、食育キャンプを「庄内生活体験学校」にて実施しました。学内インターンシップや食育キャンプを通して、食事に関する実践力の向上や食といのちの関わり、おもてなしの心を育むと同時に社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身につけることができたと思われます。

栄養士実力試験では、平成27年度の結果においてC判定を4人出したこともあり、今年度は空きコマに補習や自主学習の時間を設け対応を行った結果、C判定は0人となりA判定37人、B判定30人でした。全体の得点としては、他の短期大学の平均点を上回る得点で2年間の学修の成果を得ることができました。その他、免許および各種資格取得状況は、フードアナリスト資格及び家庭料理技能検定3級の合格率は昨年を上回り、栄養士免許をはじめフードスペシャリスト資格、フードアナリスト資格及び家庭料理技能検定3級については、昨年を下回った結果となりました。

免許	卒業者数（人）	免許取得者数（人）	取得率％（昨年％）
栄養士免許	73	66	90.4 ↓（92.3）
資格試験	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率％（昨年％）
栄養士実力試験	67	A判定：37人 B判定：30人 C判定：0人	
フードスペシャリスト資格	39	24	61.5 ↓（67.3）
健康管理士一般指導員	47	34	72.3 ↓（92.1）
フードアナリスト資格	64	59	92.2 ↑（80.9）
家庭料理技能検定3級	63	18	28.6 ↑（21.3）

②教育環境の整備

集団給食室の厨房機器(回転釜・スチームコンベクション)の設置面の底上げ、メンテナンス及び修理をしました。また、教育備品の補充等を行いました。

③研究・教育

研究面では論文、学会発表、研修会など各教員が取組み成果をあげました。また、教育面では公開授業及び相互授業参観等を通して自己研鑽に励みました。

④入学定員の確保

近隣高等学校を訪問し広報活動を行いました。各々の担当校の高校訪問を実施しました。また、オープンキャンパスでは、食と栄養・健康に関する内容で参加者が興味を抱くことのできる魅力的な体験授業を実施しました。

また、純真高等学校をはじめ近隣高等学校の進路ガイダンスに参加しました。

その他には、平成 29 年度入学予定者及び 1 年次休学者に対してプレカレッジ(入学前教育)を実施し、42 名の参加がありました。当日は、在学学生より学業への取り組みや免許資格、就職活動・卒業後の進路についての話、その後、簡単な調理操作や実験器具の取り扱いなどについての体験授業を行った。都合により欠席された入学予定者には後日実施内容を送付し対応しました。

⑤学生支援

基礎学力はもとより学習に取り組む姿勢が備わっていないことから、学習に関する様々な指導に教員は多くの時間を費やした結果、ほとんどの科目で単位の修得ができました。一部の苦手とされる科目で単位修得が困難な学生が見受けられました。引き続き担任をはじめ科目担当で教育的指導を行っていきたいと思います。生活面では親身に相談に乗り、アドバイスをすることで学生の不安が解消されました。

⑥キャリア教育

職業観育成のための講座、就職試験対策、サービス接遇検定、日本語ワープロ検定、日本語検定の受験を推進しました。

⑦地域貢献

小学生を対象にした食に関する公開講座を 2 回実施し、のべ 114 名の参加がありました。各講座とも定員 30 名を超え抽選により参加者を決定しました。講座の内容は以下の通りです。

8 月 20 日 「ランチにチャレンジ」、「サイエンスにチャレンジ」

12 月 23 日 「クリスマスケーキづくり」、「キャンドル&リース作り」

また、管理栄養士受験対策講座を 10 月から 12 月に 5 回実施しました(開催日:10 月 30 日、11 月 6 日、11 月 20 日、12 月 4 日、12 月 18 日)。18 名の申込があり外部からの参加は 1 名でした。

その他には、福岡市南区より依頼があり、地域高齢者(筑紫丘校区)との交流会を 9 月 14 日に純真短期大学調理実習室にて実施しました。

純真学園大学主催のイベントを大橋駅前広場において実施しました。本学科では食生活チェックを行い地域の方々の健康相談を行いました。

南区おおはし子どもプラザにおいて、乳幼児を持つ保護者の食相談を 10 回実施しました。

⑧その他

「みやざきの豚と金柑を使ったレシピコンクール」において学生が考案したレシピが準グランプリを受賞しました。その受賞作品を 3 月 4 日(土)、5 日(日)の 2 日間、博多阪急にて実演販売しました。

純真高等学校より依頼があり CAT(職業観育成講座)として前期に 8 回(受講者 28 名)、後期に 10 回(受講者 17 名)実施しました。

(6)こども学科

①知名度や社会的信用を高めるための取組み

上記について、平成 28 年度は以下の内容について取組みました。

- ・保育教諭のための科目等履修生制度(継続)について、95 名の受講者がありました。
- ・免許更新制(10 年)に対応する講座の平成 31 年度開設にむけて準備を進めています。
- ・近隣園との懇談会(保育所と幼稚園を交互に実施)を 10 月 4 日に実施しました。近隣の幼稚園 6 園と意見交換を行いました。
- ・近隣園との行事を通じた交流について、5 月 23 日にこどもまつり(5 園:145 名参加)を、10 月 22・23 日にこどもフェスタ(139 名参加)を実施しました。
- ・社会が抱えている子育てや保育の課題を解決していくための研究や発表について、子ども、保育、教育をテーマとした紀要 5 件(6 名)などの取組みがなされました。

②心根の優しい保育者の養成

上記について、平成 28 年度は以下の内容について取組みました。

- ・フレッシュマンセミナー時(4 月 11 日)にモデルとなる保育者との出会いとして、こどもの園純真園長豊永せつこ先生にお話をさせていただきました。
- ・フレッシュマンセミナーの中に、レクリエーションやグループワークを取り入れ、ロールプレイやグループ活動の楽しさを感じられる内容を実施しました。
- ・こどもまつり、こどもフェスタ、その他のサービスマーケティングを通して、子どもたちや高齢者、障害児とふれあい、心の交流を図っています。(全体で 14 回)。
- ・芋ほりや柿採りなどの自然体験における保育園との協力について、平成 28 年度は、計 3 回実施しました。
- ・こども学科教員による、保育園での実技指導について、書道などの実技指導を実施しました。
- ・「教職実践演習」における研究保育について、こどもの園純真と筑紫丘保育園の協力を得て 12 月と 1 月に 2 日間実施しました(3 歳 1 回、4 歳児 3 回、5 歳児 5 回)。
- ・講義の中に、グループ活動や発表、ロールプレイを多く取り入れ、集団の中における自己を見つめ、相手の気持ちを理解することができる主体的な学習機会が持てるような工夫が「子ども理解の方法」「保育教職実践演習」におけるフォトカンファレンスをはじめそれぞれの授業ではかられました。
- ・福田昌子先生の「1 日 1 度は体と心と呼吸を整えましょう」という教えを受けて、「子どもと身体表現」科目や「体育実技」で、ヨガや座禅やストレッチなどを取り入れ、自己を内側から見つめる機会を設けました。
- ・ロバート・オーエンをはじめ倉橋惣三が言うように、教師に求められる表情やまなざし、言葉遣いや態度について、検証を行い高めていく計画でしたが、十分な検証を行うことができませんでした。
- ・学生に感動を与える「特別講義」として、助産師の内田先生に講演をしていただきました。

・FD主催で相互授業参観を通して研修を行いました。

③埼玉純真短期大学との交流企画

「暮らしと環境」科目で、「大地から学ぶ」をテーマに、九州の自然について学び自然を生かした園の視察を実施しました。本学からの参加者は 50 名(1 年生)でした。

④卒業生に対するケア

上記について、平成 28 年度は以下の内容について取り組みました。

- ・ホームカミングデーを実施し、29 名が参加しました。
- ・就職園訪問の実施(継続)について、実習園訪問を兼ねて 33 園訪問しました。
- ・卒業生へのアンケートを実施する際にコメント(寄せ書き)を作成しました。
- ・桃花会との共催で、九州各県巡回ミニ同窓会の開催を計画していましたが、実施することができませんでした。次年度以降に再度検討いたします。

⑤空間整備(学生のリラックスできる)とマナーアップ

上記について、平成 28 年度は以下の内容について取り組みました。

- ・8階ピアノレッスン室の使用について、利用者の便を図るため、長時間利用者や目的外利用者との調整を行いました。
- ・季節感のある環境整備について、「保育内容研究(環境)」科目を通して継続的に整備しました。
- ・9階ロビーに 2,4,5 階のような空間を作れないか、次年度以降に再度検討いたします。

⑥認定資格

平成 28 年度の資格取得状況は、以下の通りです。

- ・レクリエーションインストラクター資格(日本レクリエーション協会)取得について、14 人が資格取得しました。
- ・認定ベビーシッター資格(全国保育サービス協会)取得について、60 人が資格取得しました。
- ・ピアヘルパー資格(日本教育カウンセラー協会)取得について、33 人が資格取得しました。

⑦高大連携

上記について、平成 28 年度は以下の内容について取り組みました。

- ・純真高等学校 CAT 支援として前期 10 回 1 人、後期 9 回 23 人の講義を実施しました。特に後期は在宅保育特別履修生の単位取得に繋がる特別講座として実施しました。
- ・藤蔭高等学校在宅保育特別履修生の単位取得に繋がる特別講座を実施しました。

3. 埼玉純真短期大学

○埼玉純真短期大学の基本理念の具現化

本学は学園創設者福田昌子博士の意志に基づき、学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」を基本理念として、豊かな人間性と良識を持った社会人の育成をとおして地域社会への貢献を目指しています。つまり、保育・教育の専門的知識と技術を持って地域社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」、そのすべての基礎となる「純真」なる心で人々に接することのできる「良き人間」の育成を目指しています。

この実現のために、以下を教職員のあり方として学生教育と研究活動を推進しています。

- ① 教職員それぞれが本学園・本学に対するオマージュ（hommage・敬意・尊敬）を持ち、学園訓の意味を理解し、それぞれの業務に誇りを持って遂行すること。
- ② 教職員一人ひとりが担当する業務等において、時代と社会の変化に柔軟に対応し、埼玉純真短期大学の将来像を明確に認識し、目的・意識的・積極的に行動すること。
- ③ 本学の発展（教育の質的向上・教職員の知識・技術の向上など）は、地域とともにあることを強く意識し、教育活動をとおしての地域貢献を目指して、本学のいっそうの充実と発展へ自信と自覚を持ち業務に創造的に取り組むこと。

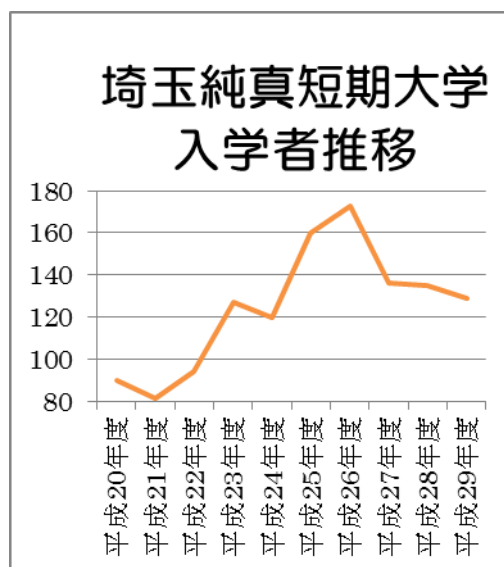
○埼玉純真短期大学事業計画（10年後を見据えて）

(1) 学生数安定的獲得（本学財政基盤の安定強化）

- ① 入学定員 150 名の確保については、平成 28 年度入学生 135 名、平成 29 年入学生募集は 129 名に留まる結果となっており、当初の目標である定員確保に 3 年間届いておりません。

入学者数データ

入学年度	入学者数
平成20年度	90
平成21年度	81
平成22年度	94
平成23年度	127
平成24年度	120
平成25年度	160
平成26年度	173
平成27年度	136
平成28年度	135
平成29年度	129



しかし、本学と本学の教育についての評価は高まっており、入学者の質も向上していることは、高校や高校生・保護者、そして授業担当教員からの言葉からも事実であることは実感しています。しかし、このことが 3 年間の募集に直結していないこと

オープンキャンパス参加者

2016年度 実施結果 (出願率60%目標)												
実施回数	実施日	こども学科				複数回						
		延べ人数 (生徒・保護)	1,2年生	個別相談者数	初回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	
1	2016.4.23	18	5	1	5	17	1					
2	2016.5.28	27	12	0	13	21	3	3				
3	2016.5.29	52	26	8	19	38	12	2				
4	2016.6.18	53	27	3	16	24	21	6	1			
5	2016.6.19	29	18	2	9	17	8	2	2			
6	2016.7.16	43	23	10	25	27	6	7	1	2		
7	2016.7.17	54	32	7	25	27	16	8	2	0	1	
8	2016.8.6	70	22	31	20	45	11	7	7			
9	2016.8.7	47	33	20	12	27	13	2	3	0	1	1
10	2016.8.27	71	26	44	8	49	6	10	2	2	2	
11	2016.8.28	64	37	34	12	44	11	5	2	1	1	
12	2016.9.24	35	19	5	11	9	8	5	7	3	1	2
13	2016.9.25	30	20	11	8	12	4	8	5	1		
合計		593	300	176	183	357	120	65	32	7	6	2

についてはIR委員会や運営委員会、入試委員会などをはじめ全教職員で検討を加え、次年度の学生募集は定員確保を目指して臨まなければならないと考えております。

まずは今年度の反省から次年度のオープンキャンパスへの参加者を増やすことはもちろんのこと、その後の入試へ結びつく方策を考え、実行することから始めなければならないと考えております。

本学学生への高い評価は、本学主催の就職説明会には近隣（関東一円）からの説明

会参加希望の幼稚園・保育所・こども園・福祉施設など 100 施設以上からの申し込みがあることで証明され、良質な就職先への就職に確実に結びついております。

(2) 修理・整備計画（学生サービス充実・向上）

高校生や学生に魅力的な教育・学習環境提供のため、学生の安心・安全なキャンパス生活のために修理・修繕と整備を継続しています。特に学習環境面では「私立大学活性化総合支援」の補助金により昨年度に続いてアクティブ・ラーニング教室整備をおこなうことができました。安全・安心面では故障や劣化にともなう変圧器交換やカーテン交換等急を要する修理に留まりました。安全面からもプールや屋上の油タンク・貯水タンクなどの撤去や 30 年を経た正門をはじめとする建造物の修理・修繕・塗替え、そして快適環境整備のトイレ改修など大きな案件は、早急に取り掛からなければならないことです。

(3) 広報活動（イメージ定着と地域貢献）



公共の場においても徹底的に“Junshin”ブランドの定着化を図ることについては従前からの羽生駅構内、本学近くの電柱をはじめとして、写真のとおり目につく所に看板を掲げるなどで周知しています。本年

度は新たに東武線太田駅と久喜駅構内、イオン羽生店近く、金子農機交差点の看板などで常に“Junshin”が目につくようにしています。

また、教員による出前講座・学生による地域ボランティア活動・地元小学生の本学見学をはじめ地域の行政・企業・教育機関と連携した活動、公開講座・研究セミナーなどを開催し、教育活動を通して地域の人々に学びを提供しています（別表参照）。

(4) 進路支援活動（学生の個性に合わせた進路指導の推進）

平成28年度 求人件数					
	保育園	幼稚園	こども園	施設	合計
埼玉東部	90	75	22	20	207
埼玉西部	64	39	5	19	127
埼玉南部	111	49	7	7	174
埼玉北部	76	51	14	19	160
埼玉県	341	214	48	65	668
茨城県	44	18	37	6	105
栃木県	48	13	25	11	97
群馬県	35	3	10	3	51
東京都	210	53	6	16	285
千葉県	82	19	8	4	113
神奈川県	71	8	3	3	85
福島県	2	11	4	4	21
新潟県	4	1	11	1	17
その他	23	5	9	3	40
合計	860	345	161	116	1482

※学童保育は施設に含む

1年生からキャリア科目を授業に盛り込み、学生に将来像を意識付け、2年生では担当教員が学生生活から進路まで一貫して適切な指導を事務局と密な連携を図り、協同して学生の進路支援を行っています。さらに保育・教育・福祉などの就職予定先から担当者を招き、本学独自の就職説明会（マッチング・フェア）を開催するなど卒業生の100%就職を達成しています。

(5) 教職員の質的向上（教育力・指導力・業務力・実習・就職指導力の充実・向上）

FD&SDをいっそう充実させ「教授方法」「態度・意識」「業務効率」等の向上を目指し、第三者による評価の「外部評価（外部評価委員会）」「他大学（岩国短期大学）との相互評価」の他、「研究発表会（特別支援教育セミナー）」や「教員・職員表彰（高橋講師）」などをこれまでとおり実施しました。

また、実習や進路の手引きを作成するとともに学習・教育効果向上を意図してカリキュラムの系統図を作成とカリキュラムの改訂（ふるさと学や異文化理解、保育者のための社会人基礎講座などの教養科目の追加）を行いました。

免許資格取得状況	
免許・資格	人数
幼稚園教諭	2
保育士	5
幼稚園 保育士	125
無	3
卒業生数	135

(6) 授業の展開への新たな取組み（学生教育充実）

I C T設備の充実・アクティブ・ラーニング方式推進については、教員が自らの授業改

善を図るためにも努力しております。この授業実施報告をFD&SD推進委員会主催の報告会で共有しています。さらに、教員（科目）間の連携をいっそう密にするために常勤・非常勤を交えた定期的な意見交換会も平成29年度を見据えて3月に行いました。

(7) 学生の人間力向上（より良い保育者養成）

本学の建学の精神「気品・知性・奉仕」を体现するためにも社会人として必要な基礎的な教養と常識を身につける授業科目（保育者のための社会人基礎講座）を設けるとともに、教職員がその模範を示していくことに努めました。この延長線上で、教育愛を自然体で伝えられるような教育・学習活動推進のために、保育に関する専門的知識や技術の達成目標を定め、その達成度を計る取組みに着手しました。

(8) 社会的活動へのより積極的実施（教育研究力のアピール）

地域と連携行事等	
開始年度	項 目
平成21年度	埼玉純真短期大学市民公開講座
平成22年度	羽生市学びあい夢プロジェクト協議会
平成23年度	子ども大学はにゅう
平成23年度	特別支援教育（発達障害）研究セミナー
平成24年度	地元小学校1年生児童の1日入学
平成25年度	クリスマス・ファミリー・コンサート
平成25年度	子ども支援センター
平成25年度	埼玉県民の日高校生学び夢プラン
平成27年度	高大連携授業
平成26年11月19日	羽生市との地域連携協力協定
平成26年12月22日	県立誠和福祉高等学校との高大連携協定
平成27年2月4日	県立進修館高等学校との高大連携協定
平成27年11月25日	県立羽生第一高等学校との高大連携協定

これまで取り組んできた公開講座や研究セミナーを市民や地域教育関係者・高校生・卒業生（リカレント教育）を対象に拡大し、本学の研究・教育活動を活発化させ、地域社会へ貢献するとともに本学の教育の質の高さのアピールをすることができました。

教員の研究活動（執筆・発表など）は従来どおりであります。公開講座や研究セミナー等は地域と本学との教育活動のブリッジであり、本学の教育財産によるサービスであることを意識して、広く市民の理解と協力を得て、地域に根差した埼玉純真短期大学として本学の位置づけを意識しながら、さらなる社会活動の定着化を図っています。

さいごに

本学の新たな10年を見通して挑戦をするならば、現場・現実・現物を見つめ、構築物をはじめとする施設設備の修理・修繕はもとより、次世代を担う人財確保を考えなければならないでしょう。これまで修理・修繕や整備のために、少しずつですが内部留保の確保を目指してきましたが、予想外に発見される修理・修繕箇所大幅支出を余儀なくされ、この計画を完全に達成することができていません。しかしながら、将来を見据え、さらなる安定と発展を求める場合には、マネジメントを意識した思い切った施策も必要でしょう。

4. 純真高等学校

平成 28 年、新校長を迎え学校法人純真学園の理念に則り、建学の精神のもと 5 年後 10 年後、更なる未来を見据えた教育と学校運営に向けての取組みをスタートしました。

(1)教職員の意識改革へ向けて

外部講師による研修会(進路、人権、包括支援等)や校内研究授業の実施、他校の公開授業研修など積極的に参加し、意識改革、入試制度改革への対応など研鑽を積むことができました。生徒の授業評価を受けて各教員が授業への改善に取り組んでいるところです。

(2)進路指導

進路担当・就職担当者の連携により概ね希望進路に、別表の通り進学・就職を果たしています。

＊平成 28 年度普通科卒業生 224 名

進路	大学	短大	専門学校	就職	未定(浪人)
実数	65	28	102	24	5

- ・大学・・・国公立大学、西南学院、福岡大 他
- ・短大・・・純真短大、筑紫女学園、福岡女学院 他
- ・専門学校・・・医療、美容、スポーツトレーナー、自動車 他
- ・就職・・・各方面 100%
- ・未定者は来年度大学受験予定

(3)生徒指導

指導部・担任・包括支援・カウンセラーの連携により退学者は前年より減少しています。

(4)看護科・看護専攻科

国家試験合格 100%は達成できませんでしたが、1クラス制ながら 10 余名の教員と実習指導担当で指導に当たることができ、落ち着いた環境で学習と臨地実習が行われています。新たな実習施設も順調に確保できています。

＊平成 28 年度看護専攻科修了生 39 名

	純真高等学校	全国平均
国家試験合格率	94.8%	94.3%
准看試験合格率	100.0%	98.9%
就職率	100.0%	

(5)生徒会・部活動

体育祭・文化祭など生徒会主導で活発な活動が展開されています。部活動も棋道部が全国大会へ進出、女子バレーボール部や陸上競技部も県大会の常連校として活躍しています。

(6)国際交流

6回目となった成歡(ソンファン)高等学校交流は順調に行われており、今年度も10名の生徒が参加し、韓国の学校生活やホームステイを体験してきました。JICE,JICA 関係では平成28年度は戦後70周年ということで多くの短期留学生在が長崎、広島に向かったため交流の機会はありませんでしたが、明年度からは近い将来の英語圏の学校との交流や留学を視野に入れ、職員の派遣・視察を予定しています。

(7)広報活動

順調な広報活動を展開し、入学定員を確保できました。特進などの実績を上げ特進・進学コースの定員確保に努めます。

	普通科	看護科・専攻科5年一貫
定員 (230)	190	40
入学者	250	42
定員充足率	131.6%	105.0%

(8)外部関係

保護者会との関係は良好で各学校行事、教育諸活動には有形無形の支援協力を頂いています。支援学校との交流や地域中学への施設の貸与など関係は良好であります。

5. 法人事務局

学園の経営の基本となる中期計画として平成 28 年度～平成 31 年度までの 4 か年計画の初年度となる法人事務局の事業を展開いたしました。

前年度に引き続き、規程の整備を進め、就業規則関連規程、事務組織規則、経理規程並びに関連規程の改定及び学園の教育理念の目標達成に向けての内部監査規程制定を行いました。

施設面においては、平成 27 年 10 月に純真学園本館の予期せぬ外壁タイルのはらみがあり、財政的にも大きな負担でしたが、学生教職員の安全を掲げて、建物外壁全面改修に平成 28 年 7 月に工事に着手し、平成 29 年 2 月まで 8 か月の期間をかけ、見違える純真学園本館が完成いたしました。

その他に法人事務局として設置学校の人事関連業務、経理関連業務、管財関連業務について連携を図り支援を行ないました。

今後も中期計画に基づき、財政計画を策定し、強固な経営組織体とすることを目的に取り組んで行きます。

(1) 総務関連

① 諸規程の整備

平成 28 年度は、前年度に引き続き就業規則関連規程について「よりわかりやすく」するための改正を行いました。また、改正育児介護休業法や改正労働契約法等の法改正に対応した学園規程の整備および新規程の制定をいたしました。

また、平成 30 年度に純真学園大学大学院を設置することに伴い、平成 28 年度から、寄附行為の変更認可申請に関する準備を開始し、平成 29 年 3 月には寄附行為変更認可申請書を文部科学省に提出いたしました。

② 監事監査支援

私立学校法に定められている監事による監査をより充実したものにするため、監事監査規程を新規制定し、監査計画、監査の実施および監査報告等について、監事に対する監査支援を行いました。

③ ストレスチェックの実施

平成 27 年 12 月から、改正労働安全法により実施が義務付けられたストレスチェックについて、平成 28 年度に第 1 回目のストレスチェックおよび、高ストレス者への産業医による面接を行いました。教職員のメンタルヘルスの向上につながるように運用していきたいと考えています。

④ 純真レストランの外部委託

平成 28 年度まで純真学園が運営していた学生食堂「純真レストラン」を経営効率化および品質・サービス面の向上を目的として、平成 29 年 4 月から食堂運営を外部業者に委託いたしました。

(2) 財務関連

① 施設設備計画に伴う資金計画

平成 27 年度に作成した中長期修繕計画に基づき、施設設備の維持管理、環境整備を行いまし

た。また、先述のとおり、純真学園本館外壁タイル改修工事を実施し、本学園の財政規模に対して負担が大きく、経常収支差額に影響を与えましたが、執行予算削減等で赤字幅を縮小しました。

②事業計画書作成、予算編成スケジュール見直し・実施

平成 29 年度の予算編成において、編成期間を平成 28 年度予算編成時よりも 1 ヶ月前倒して実施しました。これにより各設置校において、収支の検証をより深く時間をかけて行うことが出来ました。

③監査法人の監査と監事監査の連携支援

毎年度、監査法人監査初日に理事長、監事及び監査法人の三者でディスカッションを実施しており、平成 28 年度においても事業計画、中期計画、監査法人監査の概要及び監事監査の概要等について実施しました。法人事務局では職員 2 名が同席し、進行や記録の支援を行いました。

④スキルアップのための外部研修受講

業務の効率化と、適正な会計処理及び補助金申請業務に繋げることを目的とし、下記の研修に参加することでスキルアップを図りました。

- (1)資金運用担当者セミナー
- (2)会計システム研修会
- (3)消費税・法人税セミナー
- (4)大学経理部課長相当者研修会

(3)施設設備関連

①中長期施設設備の更新・修繕計画の策定

平成 27 年度から行っている教育研究環境の維持向上と施設設備の安全確保を目的に、中長期施設設備の更新・修繕計画の改訂版を作成しました。建物の維持、環境整備について、建物の巡回調査を行い、S・A・B・C ランクに評価を実施し、中長期的な視点で更新・修繕計画を立案しました。この更新・修繕計画は、今後とも継続し、中長期計画の策定に施設設備の更新・維持管理、環境整備を織り込んでいきます。

②大学新棟建設構想への支援

大学が平成 30 年度からの収容定員増への対応と、競争に打ち勝つチーム医療を特色とした教育研究体制の充実向上をコンセプトに、新棟構想が打ち出されました。それに向けての新棟基本構想と 20 年後の将来を見据えたキャンパス整備計画の作成を行ないました。

③防災関連対策の推進

防災機能の充実の一環として、火災報知設備・非常放送設備の充実と機能向上に向けて更新を行いました。

防災避難訓練については、計画通り、大学・短大・高校で実施しました。

また、災害時の社会貢献として福岡市南区役所と大規模災害時における施設の使用に関する覚書を締結しました。

④遊休不動産の有効活用及び適正な管理計画を策定

遊休不動産については、筑紫野用地がある筑紫野市城山地区の開発が発表され、それに伴い学園所有用地の売却が決定され、売買契約を締結しました。

学園が運営していた純真保育園の後の施設に社会福祉法人晶が平成 29 年度から小規模保育事業の園舎として利用する当たり、施設の整備を行いました。

以上